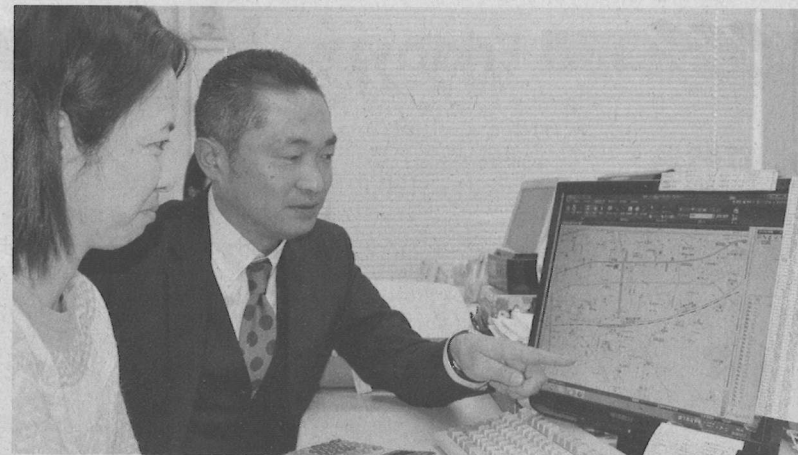


密着！仕事人

地理や法踏まえ評価



不動産鑑定士 小畑 昌也さん 44

「この店舗の妥当な賃料を調べてほしい」。東京都内の飲食チェーン本社の会議室で、浦安市に事務所を構える不動産鑑定士、小畑昌也さん(44)が店舗開発担当者の相談を受けていた。郊外にある店舗の賃料はバブル期に契約した当時のまま。小畑さんは事務所に戻るとさっそく所在地や周辺の土地価格、賃料の相場を確認にとりかかった。すると、契約当時と比べ、周辺の道路事情や商業環境は大きく変わっていることが判明。現地で聞き込みも行った。

1か月後、小畑さんは鑑定書類を示し、「周辺の土地価格は大きく下落しており、賃料も下げるのが妥当」と金額を提示。担当者は「株主にも納得してもらえませう」と安堵した。

国家資格である不動産鑑定士の仕事は、土地や建物など不動産の経済的価値を地理や法規制など様々な要因を踏まえて評価し、鑑定評価額を決定すること。土地や不動産の売買に欠かせない不動産鑑定評価書の作成は不動産鑑定士だけに認められている。活躍の場は、不動産鑑定や不動産業、金融業、コンサルティングなどに分類される。

実家が工務店だった小畑さんは学生時代から不動産

の話題に興味があった。市内にある明海大学不動産学部へ進学。大学3年で受験勉強を開始。26歳で資格を取得した。

不動産鑑定士になるためには、年に1度の国家試験に合格する必要がある。実務修習を経て、不動産鑑定士として登録される。国土交通省によると、2018年は1次試験(短答式)を1751人、2次試験(論文式)を789人が受験し、117人が合格した。

「売り主、貸主と買い手、借り手が納得する結論を出せた時にやりがいを感じます」という小畑さん。「鑑定士の仕事に男女の区別はないが、女性は一割足らず。育児などでいったん離れてもハンデはない」と女性にも挑戦を勧めている。

(栗村政伸)

ひきこもりやニートの若者のために寮の運営や訪問支援活動を行っている市川市のNPO法人「ニュースタート事務局」は、問題を抱える若者の保護者を対象にした講演会「働けなかった僕たちの本音」を市内で17日に開催する。

講演会では、市内で寮生活を送りながら社会復帰を目指す20〜40歳の男性3人が講師となり、ひきこもった理由や親への思い、動き出したきっかけなどを語る。同事務局では「ひきこもり」をテーマにした講演会も開催している。

協定を結んだ遠藤校長(左)と三橋学長(右) 千葉市稲毛区で

鎌ヶ谷特産 梨サイダー



販売が始まった「鎌ヶ谷梨サイダー」(鎌ヶ谷市で)

市ふるさと産品認定

鎌ヶ谷市に本社を置くコーヒージェン「イデカフェ」が同市梨産品と協力して開発した「鎌ヶ谷梨サイダー」が今月から販売されている。市ふるさと産品に認定し、「梨の鎌ヶ谷」のPRにつなげたいと考えた。

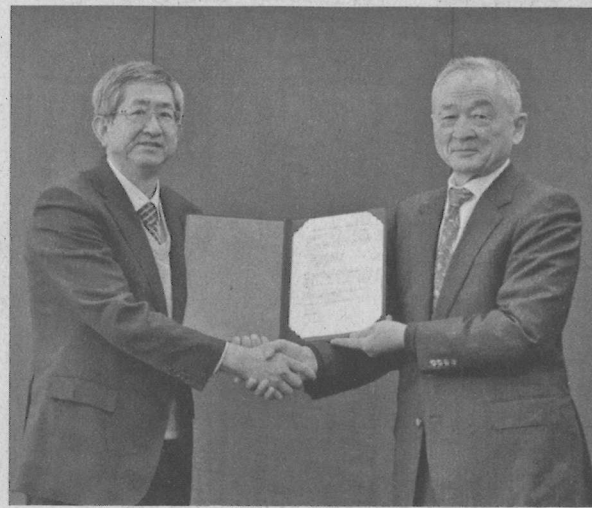
梨は同市の特産物で、栽培面積は白井市、市川市に次いで県内3位。しかし、収穫時期が7月下旬から10月中旬に限られるため、「年間を通して鎌ヶ谷の梨を楽しんでもらいたい」と鎌ヶ谷市商工会会長を務める井手勝則社長(62)が生産農家などに呼びかけ、昨春、梨を使ったサイダーの開発をスタートさせた。

夏の収穫を待ち、ほのかな甘みと豊かな香りの梨の風味を生かそうと、商工会館関係者と試作、試飲を繰り返した。梨の味はジュレートなため、濃度を5%から始めて、10、12%と上げていった。「それでも甘みが出せず、最後は強めの炭酸水を使い、濃度を15%にしたものが一番味と香りが引き立った」と井手社長が振り返る。

生産は東京都大田区の飲料メーカーに委託、昨シーズンに収穫した梨を使い、まず2000本を製造した。当面は同市新鎌ヶ谷のイオン鎌ヶ谷ショッピングセンターにある「鎌ヶ谷ブランド館」で販売する。オープン価格で、同館では1本216円(税込み)で販売する。

井手社長は「売れ行きを見ながら、今年の夏以降の生産量や販路を拡大していきたい」と話している。問い合わせは同館(047・498・9988)へ。

地域支える人材育成へ連携



稲毛高と敬愛大教育協定

千葉市立稲毛高校(美浜区)と敬愛大学(稲毛区)は、連携教育に関する協定を結んだ。同高は2019年度から始まる新たなカリキュラムなどで、国際分野や地域連携に強みを持つ同大との交流を深める。グロ

梅毒感染 最多163人

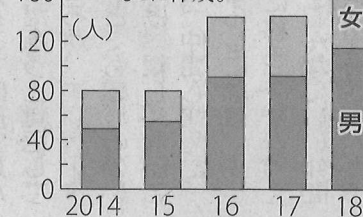
昨年 早期受診呼びかけ

昨年、県内の医療機関を受診した梅毒の感染者数が163人(速報値)に上り、2000年以降で最多となっていることが7日までの県のまとめでわかった。死に至るケースもあるほか、妊婦が感染すると死産につながる可能性もあるといい、県は「疑いがあれば、早めに医療機関を受診してほしい」と呼びかけている。

県疾病対策課によると、5人、女性が48人で、20歳の女性の感染者が目立つ。県

県内の梅毒感染者数の推移

※3月7日時点。県への取材をもとに作成。



内感染者は12年は30人だった。14年に80人、16年には140人と急増している。原因ははっきりわからないが、感染は全国的にも増加傾向にあり、厚生労働省によると、昨年は2年連続で5000人を超えている。性風俗店の利用者や女性従業員の間で感染が拡大しているとの指摘もある。

梅毒の主な感染経路は性的接触で、細菌「梅毒トレポネーマ」が粘膜や皮膚の傷から体内に侵入することで発症する。感染すると、体にバラの花びらのように

電子地域通貨 PRイベント 木更津

木更津市内限定で使える電子地域通貨「アクアコイン」をPRし、利用を呼びかけるイベントが17日、同市潮見の君津信用組合本店駐車場で開かれる。

「第1回アクアコインま

17日アクア

会場では5万円分のアクアコインが目玉となる抽選会が午前と午後に行われる。チャージコーナーを設け、会場でスマートフォンに専用アプリを初めてインストールした人には300枚、